



支えあって生きる「人」

早稲田大学大学院基幹理工学研究科
機械科学専攻修士課程2年

山崎和彦

1. はじめに

私は早稲田大学大学院基幹理工学研究科機械科学専攻(旧物質開発工学科)修士課程に在籍しており、中江研究室に所属し、鋳鉄鋳物に関する研究をしています。本年度末をもって、ご指導いただいている中江秀雄教授が定年退職されるため、私が中江研究室を修士課程で卒業する最後の学生の一人となります。中江教授は「教育が第一で胃と頭と手足が同時に動く元気な学生を育てる」との教育方針を掲げられ、これまで200名以上の優秀な卒業生を輩出されました。私は中江教授の下で研究を行い、多くのことを学び、成長することができました。また、両親の仕事の都合により、私は幼少期をイギリスのロンドンで、小学校高学年から高校卒業までをカナダのバンクーバーで過ごし、あわせて12年間を海外で生活しました。この度、本稿の執筆機会をいただきましたので、中江研究室での研究活動と海外生活での経験で学んだことを踏まえて、今後の抱負を述べさせていただきます。

2. 中江研究室での学び

私の修士課程での研究テーマは「鋳鉄鋳物の凝固時における砂型の挙動および高温強度の解析」で、鋳鉄凝固時の砂型の熱膨張量や収縮量をその場で直接測定できるようにするものです。鋳鉄鋳物の引け欠陥は砂型の高温強度に影響されやすいことが知られています。砂型の高温強度の測定法はJISに規定されておらず、通常は電気炉内での圧縮試験によって測定されています。しかし、こうした方法では砂型内の温度分布や鋳造雰囲気の影響が測定値に反映されません。鋳造時に直接測定できる新しい試験方法を考案することによって、測定条件を実環境に近づけることができ、従来の測定法より信頼性の高い値を得ることが可能になります。この研究は実験装置を設計するところから始めました。それは私にとってとても幸運なことで、次に示す一連の研究活動の醍醐味を研究を始めてからの2年間で一通り体験することができました。

(1)世の中で問題になっていることに対する解決法を考える。
(2)その解決法が妥当であるか十分に検討する。(3)実験装置を設計・製作し、実験する。(4)実験に失敗する。(5)問題点を洗

い直して再度実験する。(6)実験が成功する。(7)実験データを分析・考察する。(8)学会等で発表する。

この体験の中で最も勉強になったことがあります。それは「自分の非力さ」を痛感したことです。研究を一から始めて発表まで漕ぎつけられたのは、私一人だけの力によるものではありません。中江教授のご指導をはじめとして、先輩や同級生のアドバイス、後輩からの手助け、家族の支援があってこそ辿りつけたのだと思います。

3. 海外での学び

これまでの人生の約半分を海外で過ごした中で、沢山の貴重な経験を積むことができました。その中で私が最も衝撃を受けた一例を紹介します。この経験で、私は「コミュニケーション」の大切さをまさに肌で感じました。3歳でイギリスに渡った私は、現地の幼稚園に入園しました。もちろん英語など話せるはずもなかったのに、積極的にボディランゲージで周囲とコミュニケーションを図り、多くの友人を作ることになりました。小学校低学年までは、拙い英語とボディランゲージを駆使して日常会話には不自由しませんでした。しかし小学校2年生で日本に帰国し、3年間日本で生活した後、カナダのバンクーバーに行くことになって事態は一変しました。日本で過ごした3年間でイギリスで覚えた英語を全て忘れてしまい、カナダの学校では全く英語が話せなくなっていたのです。小学校高学年にもなると、ボディランゲージだけでは満足に対話ができません。言葉を話せないことで、周囲と仲良くなれない、信頼関係を結べないということに、そのとき初めて気がつきました。その後必死になって英語を勉強し、なんとか周囲と意思疎通できるようになって、私は人と人とを繋ぐ「コミュニケーション」の大切さを身に染みて感じました。人は話しあうこと、触れあうこと、意見をぶつけあうこと等で信頼関係を築くことができます。そして、それは生きていく上でとても大切なことであるということ学びました。

4. おわりに

今春の修士課程修了後、私は企業での研究職に就くこととなります。まだ研究内容は決まっていますが、私は次のことを常に心に持って研究にあたりたいと思います。「人と人との繋がりを大切にしながら仕事をする」ことです。私と周囲の人との繋がりはもちろんですが、周りの人同士の繋がりが大切になりたいと思っています。皆が互いに助けあい、補いあい、円滑に仕事を進めていくことができれば、より質の高い成果を生み出していけるのではないかと考えています。職種や部署、役職の違う人々を繋げ、信頼関係を結びながら仕事をするのが理想ですが、まずは自分の周りの人達との信頼関係を築いていくことを目標として働いていきたいと思ひます。

最後に、これまで幾多の学びの場を設けて下さった中江秀雄教授に、この場を借りて厚くお礼を申し上げますとともに、定年退職のお祝いを申し上げます。中江教授の今後ますますのご健康とご活躍を祈念して、結びとさせていただきます。

(2012年1月6日受理)

(連絡先：〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1)